

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

博物館明治村開村50周年 明治の想いを聴く力 紙上採録

主催:朝日新聞社広告局 協賛:名古屋鉄道株式会社 博物館明治村



明治の建築から、人と社会を見つめて

明治時代の建造物を中心に歴史的遺産を移築・保存している「博物館明治村」(愛知県犬山市)が今年、開村50周年を迎えた。11月10日、東京・霞ヶ関のイノホールで開催された記念シンポジウム「明治の想いを聴く力」では、多くの人々が識者の話に熱心に耳を傾けていた。

西洋と日本の文化が交錯する明治の時代

江口 明治時代というとき、どんなイメージがありますか。

阿川 黒船がやって来たとき、日本人は怖がって逃げ帰るところかベリーたちの洋服の「ボタン」に大変興味をもってソロソロついていったという話を聞いたことがあります。つまり、突如出合った異国の文化に對して、恐れ、好奇心、勝つた、これが日本人の根源なのだと思います。その後、明治時代にドブと押し寄せてきた西洋の食べ物や服、髪形も、日本古来の文化や技術、知恵とうまく融合させながら、器用に取入れられましたよね。

中川 そうですね。その時代のありようは、「明治村」にある建造物からも見て取れます。例えば、長崎に建てられた「大明寺聖パウロ教会堂」(写真①)。「見ると普通の民家ですが、内部はゴシック様式という隠れキリシタンの地ならではの構造です。西洋では石造りが一般的ですが、これは日本の大工が、カゴを編むように木や竹を組み、土壁と土間に用いて造ったもの。また柱は一本おきに柱頭飾りから下を取り払われ、窮屈にならないよう工夫されています。西洋の文化をただまねるだけでなく、高度な日本の伝統技術を取り入れながら独自の教会堂を造り上げたことがわかります。

阿川 私は「東松家住宅」(写真②)も大好きなんです。隠れ茶室や複雑な中階段があったり、外光を巧みに利用した窓があったりして、見ているだけでワクワクします。中川 3階まで吹き抜けの土間がある「東松家」は、商店建築の先駆けといわれています。空間の使い

方非常に立体化・高密度化されている、デザインもすばらしい。これは、江戸以前から連続と続く日本建築の伝統的な流れのなかで近代化を遂げた二例です。このように、一言で「明治時代の建築」といっても、その近代化には様々なカタチがあったわけです。

江口 明治村の初代館長である故谷口吉郎は「建築は歴史の証言者」という言葉を残しています。明治をはじめとする近代建築を保存する意義はどこにあるのでしょうか。

藤森 私たち人間は、自分が自分であることを感じる、すなわち、適切なこととなく生きてきたという、時間的なアイデンティティを確

立するために、「変わらないもの」が必要なんですよ。変わらなないものとは、周りの環境、つまり自然や街並み、建築です。例えば、母校の校舎を見ると、私たちがしみじみと懐かしく思っています。これは、小学校時代から今までずっと連続的に自分が生きてきた、そのことに感動しているわけなんです。

阿川 なるほど。藤森 歴史上、戦乱で何度も自分たちの街が壊されてきたヨーロッパの人々は、その自覚が非常に強いです。多くの都市で古い建物を壊すことが禁止されているのはそのためです。対して日本人は、その自覚が乏しいためか、古い建物を大切に残そうという意識があまりありません。現代の日本人に漂う漠然とした不安感、「変わらなないもの」がない、という点にも由来しているのではないのでしょうか。



作家・エッセイスト・明治村村長 阿川佐和子さん

新しいものへの好奇心が日本人の根源にあると思う



建築史家・早稲田大学名誉教授・明治村村長 中川武さん

西洋と日本が融合した明治の建築は一見の価値あり



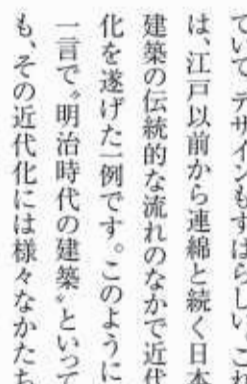
①大明寺聖パウロ教会堂(博物館明治村) 内部は三層式になっており、聖母マリアが現れたとされる「ルルドの洞窟」も再現されている



②東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



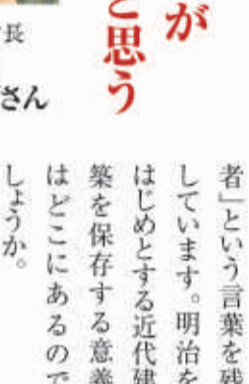
③東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



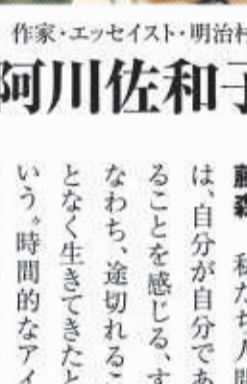
④東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑤東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑥東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



建築史家・建築家・東京大学名誉教授 藤森照信さん

アイデンティティ形成に建築物が果たす役割がある



建築史家・建築家・東京大学名誉教授 藤森照信さん



⑦東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑧東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑨東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑩東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている



⑪東松家住宅(博物館明治村) 元は平屋だったが、明治時代に3階建てに増築された。土間が3階まで吹き抜けになっている

漱石ゆかりの貴重な品も展示

ロビーには、明治の文豪・夏目漱石が着用したフロックコートや、鹿鳴館で使用されていた「竹塗蒔絵小椅子」、錦絵「貴顕舞踏之略図」など、博物館明治村が所蔵する貴重な品が展示された。漱石のコートには「意外に小さくて驚いた」との声も。

明治村の建物の修繕などのために、会場では1口500円の「明治村浪漫募金」を実施。協力した方にはオリジナルの記念品が渡された。



司会進行 江口ともみさん

阿川 私は今年、四代目村村長に就任しましたが、あの広大な明治村を全てじっくり見て回るには、まだまだ時間がかかりそうです(笑)。でも知らないことが多いぶん、行くたびに新たな発見があつて本当に面白い。「西園寺公望が竹が好きだからインテリアも竹だらけなのね」「こんなきれいな板の間のある家に住みたいわ」と思いを巡らせるだけで楽しいものです。皆さんもぜひ気軽に歩いてみてください。皆さんもぜひ気軽に歩いてみてください。皆さんもぜひ気軽に歩いてみてください。

中川 昔さんもぜひ足を運んでいただき、明治の時代を、明治の心を感じてほしいと思います。

江口 明治村は開村50周年を迎えました。その面白さ、意義をあらためてお聞かせください。

中川 明治という時代は、直線に近代化が進んだわけではありませんが、開国とともに近代国家へと変容を遂げる一方で、封建的な思想や旧体制と激しく葛藤していた時代でもありました。そういう二面性のなかで、行きつ戻りつ近代化してきたわけですね。明治村でそんな時代の空気に触れることは、混迷が続く現代に生きる私たちへの一つのヒントになる気がするのです。明治

阿川 「いまはどのような時代なのか」「日本人はどこへ向かうのか」を見つめ直すきっかけになればと思っています。



明治の想いを聴く力



帝国ホテル中央玄関(博物館明治村)

博物館 明治村 50th 愛知県犬山市

【アクセス】「名鉄名古屋」駅から「犬山」駅下車 バス20分(愛知県犬山市宇内山1番地)
 【開村時間】10:00~16:00(季節により変動)
 【休 日】12~2月の毎週月曜日(2016年1月4日・11日は開村)、12月31日(木)、2016年1月12日(火)~15日(金) ※詳しくはWEBサイトまで
 【TEL】0568-67-0314
 【URL】www.meijimura.com

本物の価値を残す、伝える。
名古屋鉄道